

探訪 北の風景 ④

馬産地のナイター競馬 日高管内日高町・門別

青木和弘



「いけっ！ そうだ！ いけっ いけっ いけっ やったあー！」
照明に浮かび上がる門別競馬場のスタンドがわく。ここ日高管内はサラブレッドの一大生産地だ。ハイセイコー、オグリキャップ、トウショウボーイなど、名前をあげればきりがない。
北海道が主催するホッカイドウ競馬の全レースがこの競馬場で開かれる。一周1600メートルの平たんなダートコースだ。
競馬場がある日高町は人口1万3500人。緑に囲まれた牧場地帯のど真ん中に競馬場がある。

人口17万5千人の苫小牧市まで40キロ、194万人の札幌市まで100キロ離れている。
私が訪ねた7月16日の観客は200人くらいだろうか。第1レースのスタートは15時10分で、最終レースは20時40分というナイター競馬である。17時半を過ぎると、仕事を終えたサラリーマンや若いカップル、牧場関係者と思われる家族連れの姿が増え、大型ショッピングセンターの一角のような明るい雰囲気である。

ホッカイドウ競馬の大きな特徴は「2歳戦」の比重が非常に大きいことだ。いま、門別競馬場全体で560頭ほどの2歳馬が在籍し、馬主の6割は牧場関係者だという。このレースでいち早く才能を磨き、秋以降、大半が他県の地方競馬や中央競馬に転厩していく。2歳馬の一大供給基地であり、生産馬売り出しのステーションといえるわけだ。
ホッカイドウ競馬は、2009年までの累積赤字が242億円に達し、存続が危ぶまれた。廃止は馬産農家にとつて大変な痛手になる。1997年には帯広、函館、岩見沢の開催をやめ、08年には旭川、09年には札幌開催もやめて、全レースを門別競馬場に集約した。
昨年度、単年度収益が1億7700万円と、22年ぶりに黒字となった。馬券発売額140億17



地響きをたて疾走するサラブレッドは美しい

00万円のうち、インターネット販売が約64%を占めるまでになった。12年度から始まった日本中央競馬会（JRA）との馬券の相互発売などで弾みがついたとされる。門別競馬場は集客には不利でも、ネット販売の普及と、生産者と密着した競馬場運営で、活路を見いだそうとしている。
ホッカイドウ競馬は4月下旬から11月中旬までの80日間、毎週、通常は火、水、木曜にナイターで開催される。

この日、16時過ぎになるとスタンドの上空をたくさんのツバメが飛び交い、第7レースが終わった18時半ごろ、ナイター設備に明かりがともった。



熱心なファンや牧場関係者が熱い思いでレースを見守る門別競馬場のナイター競馬



初心者にも分かりやすいパドック解説が好評だ

門別競馬場では初心者にも分かりやすいパドック解説が好評だ。実際にその場で馬を見ながら、出走馬一頭ずつの状態や特徴を場内放送している。馬券を買う参考に、競馬新聞を見ながら熱心に耳を傾けるファンがいた。

1日1便、開催日には札幌駅北口から門別競馬場まで予約制の無料送迎バスが出ている。同競馬場のホームページで案内している。

日高路は、車で国道を走るだけでサラブレッドに出合える。ふと、心を引かれたら、門別競馬場に立ち寄ってみてはいかがだろうか。実に北海道らしい風景の中に競馬場があり、美しい競走馬が躍動している。